

北本市国民健康保険 データヘルス計画

平成29年 月

北本市



目次

第1章 計画の概要	2
1. 計画策定の背景	2
2. 計画の位置づけ	2
3. 基本方針	3
4. 計画の期間	3
第2章 北本市の現状	4
1. 基本情報	4
2. 医療費等の状況	6
(1) 医療基礎情報	6
(2) 疾病別医療費統計	8
(3) 医療機関受診状況	22
(4) 後発医薬品普及状況	23
3. 特定健康診査受診状況及び特定保健指導実施状況	24
(1) 特定健康診査受診状況	24
(2) 特定保健指導実施状況	26
(3) 特定健康診査及びレセプトによる指導対象者の状況	27
(4) 特定健康診査受診有無による医療費の状況	28
第3章 過去の取り組みの考察	
第4章 実施事業	
1. 健康課題の抽出と対策の方向性	
2. 実施事業の選定	
3. 実施事業の内容	
第5章 その他	
1. データヘルス計画の公表・周知	
2. データヘルス計画の改定	
3. 事業運営上の留意事項	
(1) 各種検（健）診等の連携	
(2) 健康づくり事業との連携	
4. 個人情報の保護	

第1章 計画の概要

1. 計画策定の背景

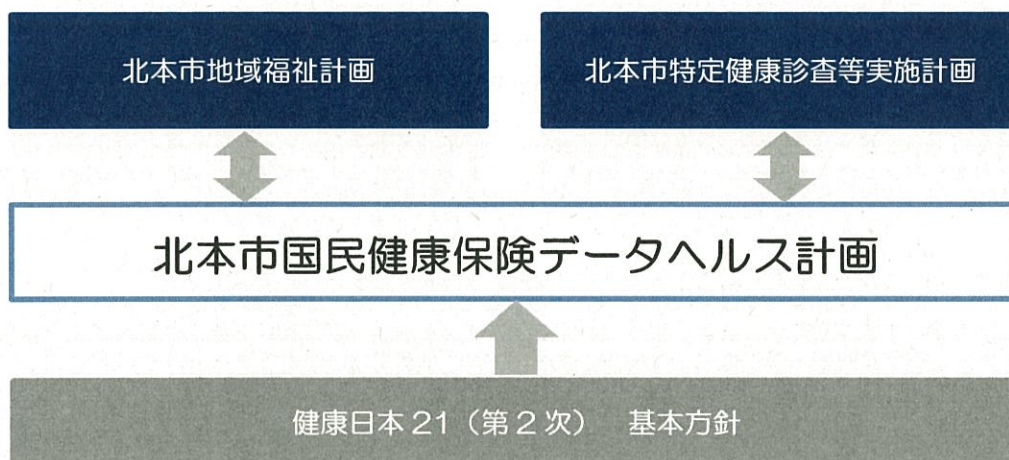
「日本再興戦略」（平成25年6月14日閣議決定）において、「全ての健康保険組合に対し、レセプト等のデータ分析、それに基づく加入者の健康保持増進のための事業計画として「データヘルス計画」の作成・公表、事業実施、評価等の取組を求めるとともに、市町村国保が同様の取組を行うことを推進する。」とされており、データヘルス計画には健康・医療情報（健康診査の結果や診療報酬明細書から得られる情報（以下「健診データ」、「レセプトデータ」という））を分析し、健康状態や健康課題を客観的な指標を用いて示すこととある。また、これらの分析結果を踏まえ、直ちに取り組むべき健康課題、中長期的に取り組むべき健康課題を明確にし、目標値の設定を含めた事業内容の企画を行うこととしている。実施計画に基づく事業の実施に当たっては、費用対効果を考慮することや、健診データやレセプトデータを活用し、生活習慣の改善により予防効果が大きく期待できる者を明確にし、優先順位をつけて行うこととある。それぞれの事業については、少なくとも毎年度効果の測定及び評価を行った上で、必要に応じて事業内容等の見直しを行うことが必要である。

北本市国民健康保険においては、上記の要件に沿ってデータヘルス計画を作成し、被保険者の健康維持増進を図る。

2. 計画の位置づけ

データヘルス計画（保健事業実施計画）とは、健康・医療情報を活用してPDCAサイクル(Plan-Do-Check-Actionサイクル)に沿った効果的かつ効率的な保健事業の実施を図るための保健事業の実施計画である。計画の策定だけでなく、事業の評価においても健診データやレセプトデータの分析を行い、他の計画等との整合を図りながら事業内容の見直しを実施する。

データヘルス計画は、「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21（第2次）」）に示された基本方針を踏まえるとともに、「北本市地域福祉計画」及び「高齢者の医療の確保に関する法律」（昭和57年法律第80号）第19条第1項の規定により定める「北本市特定健康診査等実施計画」それぞれの計画との整合性を図る。



3. 基本方針

データヘルス計画では、健診データやレセプトデータの分析結果を活用し、本市の実態に則した事業を計画する。目標とする成果を達成するために、以下の手順で計画を策定する。

手順1 課題の明確化

潜在する課題を確認するため、健診データやレセプトデータを分析し、疾病ごとの医療費比較、高額レセプトの発生状況や発生元となる疾病を把握し、課題を明確にする。

手順2 事業の選定

明確となった課題の改善に向けて、費用対効果の期待できる事業を選定する。

手順3 評価指標と目標の設定

事業実施の効果を測定するための評価指標と目標を設定する。また、この目標を達成することの出来る効果的な実施方法を検討し、明示する。

4. 計画の期間

本計画の期間は、平成30年度～平成35年度の6年間とする。

第2章 北本市の現状

1. 基本情報

本市の平成27年度の人口は68,538人である。人口に対する高齢化率（65歳以上）は21.9%で、埼玉県の20.7%、同規模自治体の24.2%、全国の23.2%と比較すると、高齢化率（65歳以上）は埼玉県より高く、同規模自治体・全国より低くなっている。

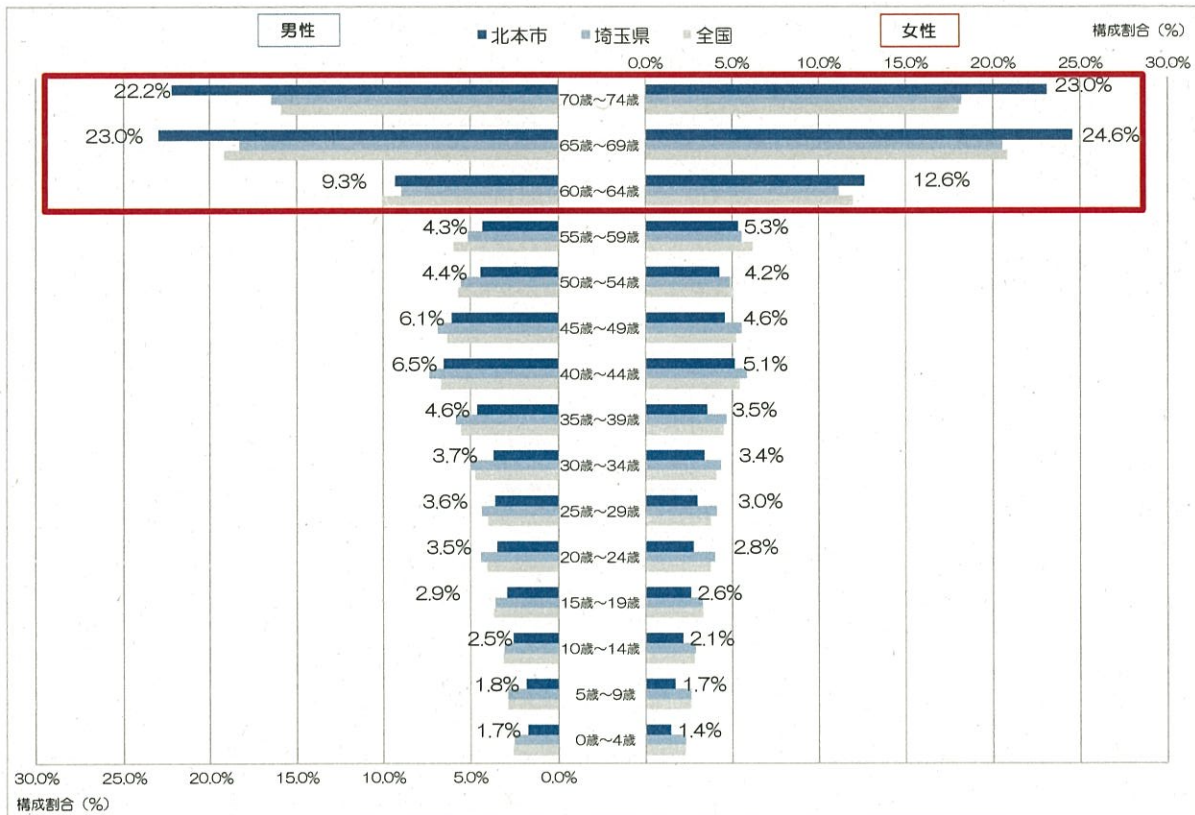
国民健康保険被保険者数は18,605人で、本市の人口に占める国保加入者の割合（以下、国保加入率）は27.1%であり、埼玉県の31.0%、全国の28.2%と比較すると、国保加入率は低くなっている。

表1 人口構成概要（平成27年度）

	人口総数 (人)	高齢化率(65歳以上)	国保被保険者数 (人)	国保加入率
北本市	68,538	21.9%	18,605	27.1%
埼玉県	7,040,528	20.7%	2,161,095	31.0%
同規模自治体	68,241	24.2%	17,773	26.1%
全国	124,852,975	23.2%	33,767,446	28.2%

※国保データベース（KDB）システム 「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」より

国民健康保険被保険者数は60歳以上で約半数を占めており、埼玉県や全国と比較すると65歳以上の割合が高くなっている。



※国保データベース（KDB）システム 「人口及び被保険者の状況」より

図1 男女別・年齢階層別被保険者数構成割合ピラミッド

平均寿命・健康寿命をみると、平均寿命については、男性は 79.3 歳、女性は 85.8 歳であり、埼玉県・同規模自治体・全国と比較して低くなっている。健康寿命については、男性は埼玉県・同規模自治体・全国とほぼ同水準となっており、女性は埼玉県・同規模自治体・全国と比較して高くなっている。

表 2 平均寿命・健康寿命

	平均寿命(歳)		健康寿命(歳)	
	男性	女性	男性	女性
北本市	79.3	85.8	65.2	67.3
埼玉県	79.6	85.9	65.5	66.9
同規模自治体	79.6	86.3	65.2	66.8
全国	79.6	86.4	65.2	66.8

※国保データベース (KDB) システム 「地域の全体像の把握」より

本市における主たる死因は、多いものから順に「悪性新生物 (がん)」、「心臓病」、「脳疾患」となっており、埼玉県・同規模自治体・全国と同じ傾向となっている。割合をみると、埼玉県・同規模自治体・全国と比較して「悪性新生物 (がん)」、「自殺」の割合が高く、「脳疾患」の割合が低くなっている。

表 3 主たる死因とその割合

疾病項目	北本市		埼玉県	同規模自治体	全国
	人数 (人)	割合			
悪性新生物	203	49.2%	48.8%	47.5%	49.0%
心臓病	111	26.9%	27.5%	27.1%	26.4%
脳疾患	60	14.5%	14.8%	16.7%	15.9%
自殺	21	5.1%	4.0%	3.4%	3.5%
腎不全	13	3.1%	3.0%	3.4%	3.4%
糖尿病	5	1.2%	1.9%	1.9%	1.9%
合計	413				

※国保データベース (KDB) システム 「地域の全体像の把握」より

2. 医療費等の状況

(1) 医療基礎情報

本市の医療基礎情報は表4のとおりである。千人当たりの病院数は0.2となっており、埼玉県・同規模自治体・全国と同水準となっている。医師数は同規模自治体・全国と比較して少なくなっている。

1件当たり医療費は32,870円となっており、埼玉県・同規模自治体・全国と比較すると低くなっている。

外来の1人当たり医療費は埼玉県・同規模自治体・全国と比較して高くなっているが、1日当たり医療費は低くなっている。

入院の1件当たり医療費や1人当たり医療費、1日当たり医療費は、埼玉県・同規模自治体・全国と比較して高くなっている。

表4 医療基礎情報

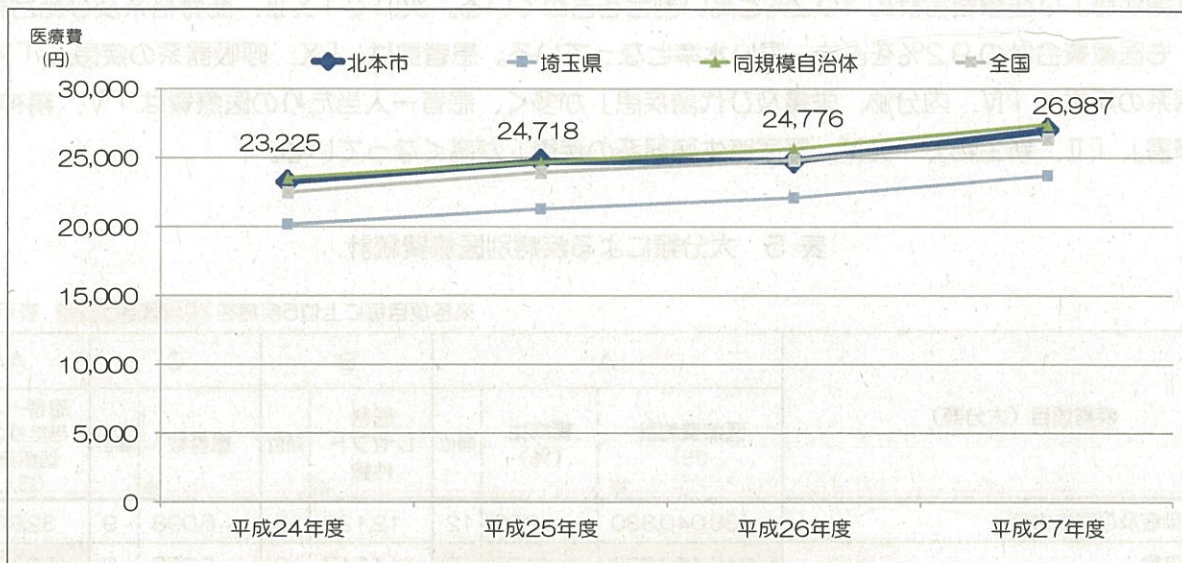
区 分	北本市	埼玉県	同規模自治体	全国
千人当たり				
病院数	0.2	0.2	0.3	0.2
診療所数	2.4	1.9	2.7	2.8
病床数	33.8	28.6	48.3	44.8
医師数(人)	6.6	5.2	7.0	8.4
外来患者数(人)	748.2	625.8	680.9	667.5
入院患者数(人)	15.2	14.5	19.6	18.2
医科レセプト数(件)	763.4	640.3	700.4	685.7
1件当たり医療費(円)				
一 般(円)	32,750	34,210	36,420	35,580
退 職(円)	35,620	36,880	37,410	37,800
外 来				
外来費用の割合 ※1	66.3%	64.1%	60.2%	60.8%
1件当たり医療費(円)	22,220	22,490	22,580	22,280
1人当たり医療費(円)	16,630	14,070	15,370	14,870
1日当たり医療費(円)	12,470	14,180	14,250	14,000
1件当たり受診回数	1.8	1.6	1.6	1.6
入 院				
入院費用の割合 ※2	33.7%	35.9%	39.8%	39.2%
1件当たり医療費(円)	558,590	542,470	519,100	527,160
1人当たり医療費(円)	8,470	7,890	10,170	9,580
1日当たり医療費(円)	38,870	37,180	31,990	33,570
1件当たり在院日数	14.4	14.6	16.2	15.7

※国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」より

※1「外来費用の割合 = 外来レセプトの総点数 ÷ 医科レセプトの総点数」で算出。

※2「入院費用の割合 = 入院レセプトの総点数 ÷ 医科レセプトの総点数」で算出。

被保険者一人当たり医療費は、高齢化の進展及び医療の高度化により年々上昇し続けており、平成24年度と平成27年度を比較すると、約3,500円増加している。埼玉県と比較すると一人当たりの医療費は高くなっており、同規模自治体・全国と同水準となっている。



※国保データベース（KDB）システム 「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」より

図2 被保険者一人当たり医療費(月額/人)の推移

(2) 疾病別医療費統計

① 大分類による疾病別医療費統計

疾病項目ごとに医療費総計、医科レセプト件数、患者数を算出すると、表5のとおりである。「IX. 循環器系の疾患」が医療費合計の18.0%を占め、「II. 新生物」は医療費合計の14.3%、「IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患」は医療費合計の10.2%と高い割合を占めている。次いで「XIII. 筋骨格系及び結合組織の疾患」も医療費合計の9.2%を占め、高い水準となっている。患者数は、「X. 呼吸器系の疾患」、「XI. 消化器系の疾患」、「IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患」が多く、患者一人当たりの医療費は「V. 精神及び行動の障害」、「II. 新生物」、「XIV. 腎尿路生殖器系の疾患」が高くなっている。

表5 大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を網掛け表示する。

疾病項目（大分類）	A			B		C		A/C	
	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	医科 レセプト 件数 ※	順位	患者数 ※	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	168,040,330	2.9%	12	12,126	13	5,098	9	32,962	14
II. 新生物	816,450,230	14.3%	2	14,917	9	5,355	8	152,465	2
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	71,187,630	1.2%	15	5,663	15	2,558	14	27,829	15
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	580,966,970	10.2%	3	57,458	2	8,669	3	67,017	8
V. 精神及び行動の障害	359,665,760	6.3%	7	13,952	10	2,184	15	164,682	1
VI. 神経系の疾患	252,913,030	4.4%	9	28,169	6	4,472	11	56,555	10
VII. 眼及び付属器の疾患	220,956,300	3.9%	10	18,550	7	6,184	6	35,730	13
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	41,316,620	0.7%	16	4,494	16	1,726	16	23,938	17
IX. 循環器系の疾患	1,028,137,900	18.0%	1	65,420	1	8,664	4	118,668	4
X. 呼吸器系の疾患	352,148,480	6.2%	8	31,765	5	9,495	1	37,088	12
XI. 消化器系の疾患	404,457,190	7.1%	6	45,074	3	9,189	2	44,015	11
XII. 皮膚及び皮下組織の疾患	116,701,150	2.0%	13	15,434	8	5,457	7	21,386	18
XIII. 筋骨格系及び結合組織の疾患	523,274,390	9.2%	4	42,982	4	7,760	5	67,432	7
XIV. 腎尿路生殖器系の疾患	484,183,180	8.5%	5	13,593	12	3,692	12	131,144	3
XV. 妊娠、分娩及び産じょく	7,757,140	0.1%	18	188	20	93	20	83,410	6
XVI. 周産期に発生した病態	2,263,680	0.0%	21	26	21	24	21	94,320	5
XVII. 先天奇形、変形及び染色体異常	6,608,020	0.1%	19	501	19	251	19	26,327	16
XVIII. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	81,787,180	1.4%	14	13,848	11	5,091	10	16,065	19
XIX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響	181,174,670	3.2%	11	7,738	14	3,159	13	57,352	9
XXI. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	14,617,360	0.3%	17	4,124	17	999	17	14,632	20
XXII. 特殊目的用コード	0	0.0%	22	0	22	0	22	0	22
分類外	4,153,500	0.1%	20	972	18	532	18	7,807	21
合計	5,718,760,710	100.0%		174,370		17,156		333,339	

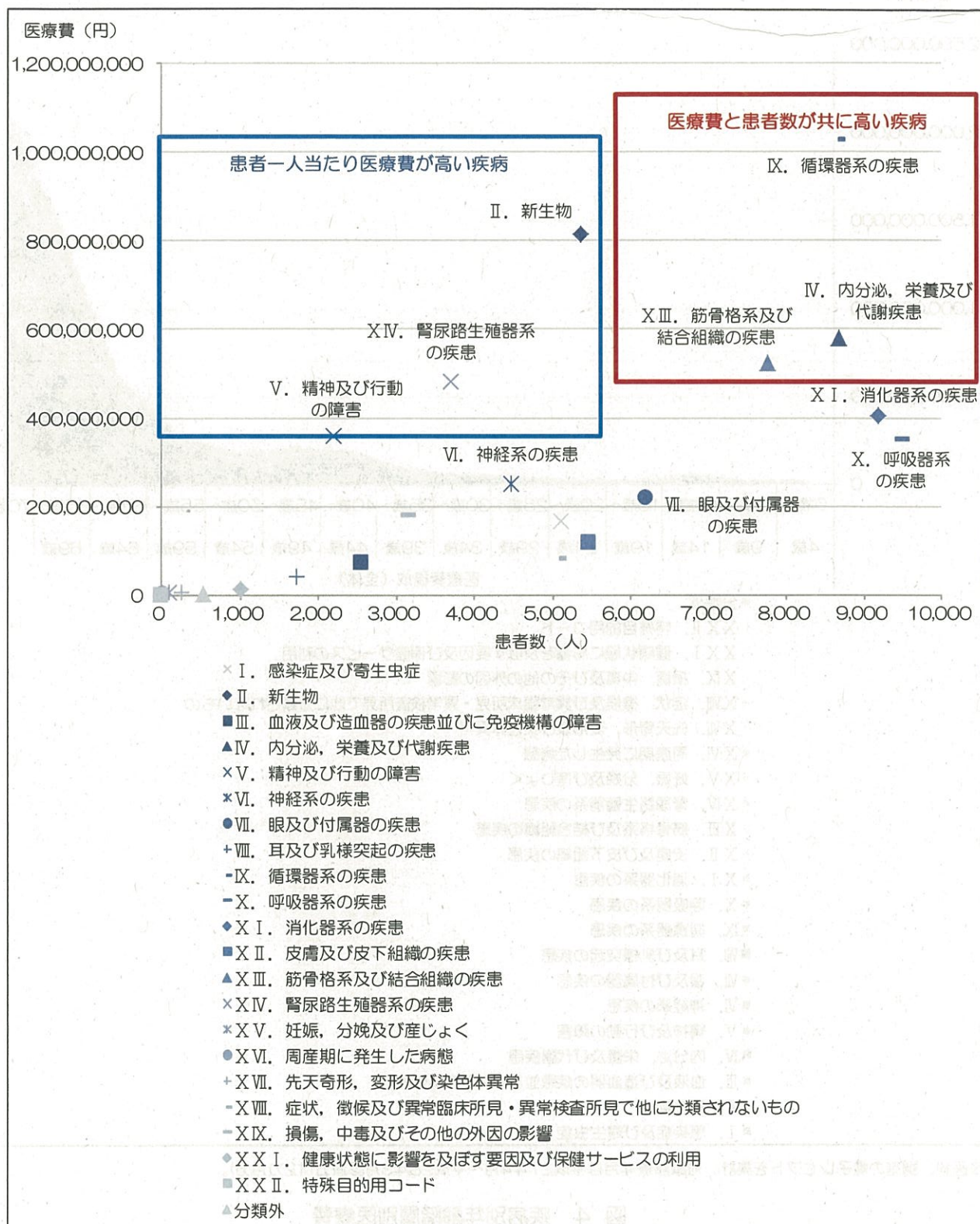
※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。

※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合、調剤レセプトの医療費は集計できない。そのため他統計と一致しない。

※医科レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(一件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

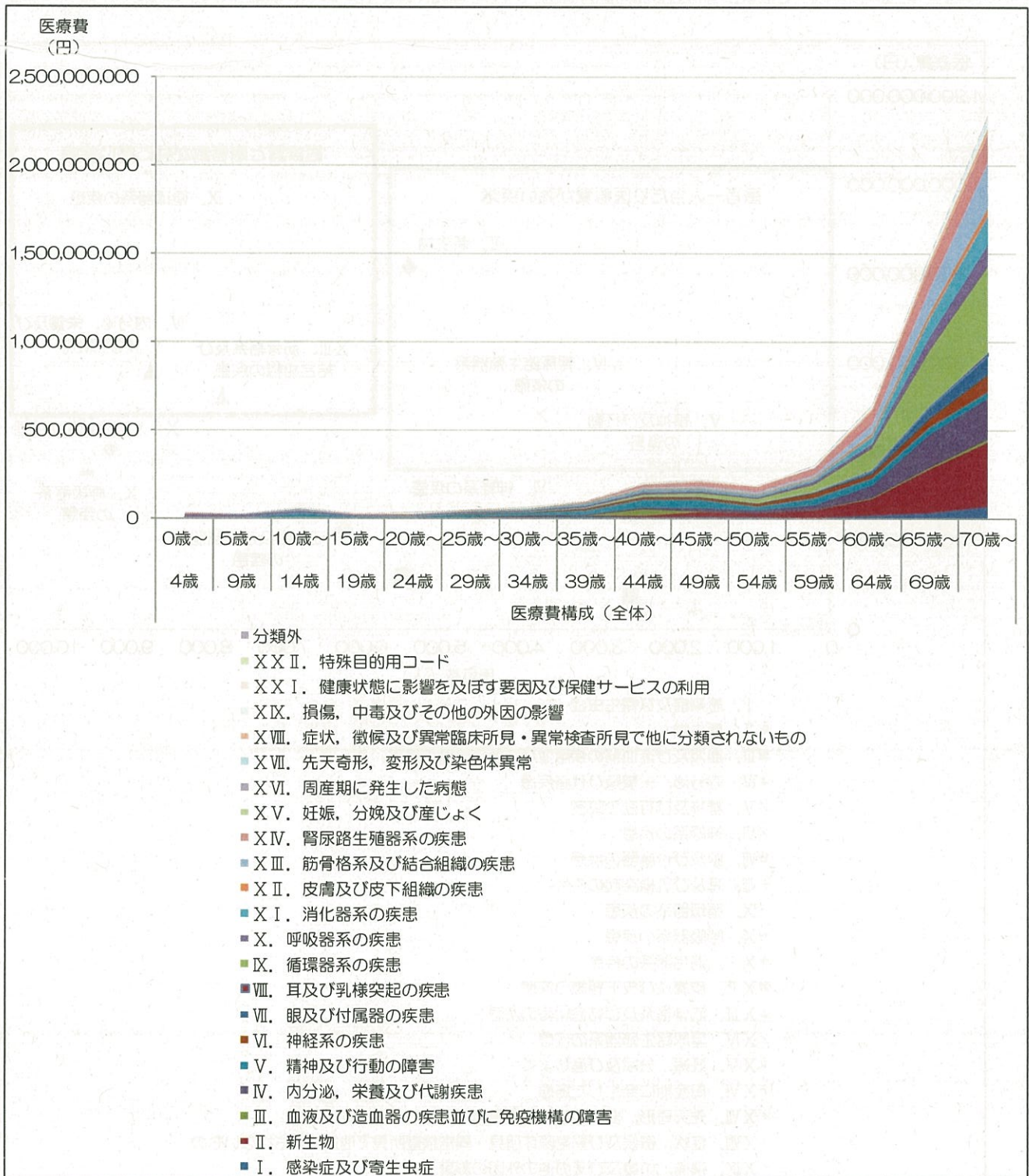
疾病項目ごとの医療費総計、患者数の分布をみると、「IX. 循環器系の疾患」や糖尿病や脂質異常症が含まれる「IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患」、「XIII. 筋骨格系及び結合組織の疾患」は医療費が高く、患者数も多くなっている。また「II. 新生物」や「V. 精神及び行動の障害」、「XIV. 腎尿路生殖器系の疾患」は患者数が少ないが、患者一人当たりの医療費が高いため医療費が高くなっている。



※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。

図 3 疾病別医療費及び患者数

5歳ごとの年齢階層別の医療費をみると、60歳以上で急激に増加しており、70歳以上の医療費が最も高くなっている。その中でも、「Ⅱ. 新生物」、「Ⅳ. 内分泌、栄養及び代謝疾患」、「Ⅸ. 循環器系の疾患」、「ⅩⅠ. 消化器系の疾患」、「ⅩⅢ. 筋骨格系及び結合組織の疾患」の医療費が高くなっている。



※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。

図 4 疾病別年齢階層別医療費

疾病項目ごとの年齢別の医療費の上位5疾病をみると、男女共に30歳までは「X. 呼吸器系の疾患」の医療費が高く、30歳以降では「V. 精神及び行動の障害」、「VI. 神経系の疾患」の医療費が高くなっている。50歳以降では、男性は、「II. 新生物」、「IX. 循環器系の疾患」、「XIV. 腎尿路生殖器系の疾患」の医療費が高くなり、女性は「II. 新生物」、「IX. 循環器系の疾患」、「XIII. 筋骨格系及び結合組織の疾患」の医療費が高くなっている。

表 6 疾病別年齢階層別医療費 上位5疾病 【男性】

年齢階層	1	2	3	4	5
0歳～4歳	X. 呼吸器系の疾患	XII. 皮膚及び皮下組織の疾患	XVII. 先天奇形変形及び染色体異常	I. 感染症及び寄生虫症	XVI. 周産期に発生した病態
5歳～9歳	X. 呼吸器系の疾患	XII. 皮膚及び皮下組織の疾患	XIX. 損傷、中毒及びその他外因の影響	I. 感染症及び寄生虫症	VII. 眼及び付属器の疾患
10歳～14歳	V. 精神及び行動障害	X. 呼吸器系の疾患	XIX. 損傷、中毒及びその他外因の影響	XIII. 筋骨格系及び結合組織の疾患	II. 新生物
15歳～19歳	V. 精神及び行動障害	XIX. 損傷、中毒及びその他外因の影響	X. 呼吸器系の疾患	VII. 眼及び付属器の疾患	XII. 皮膚及び皮下組織の疾患
20歳～24歳	XIX. 損傷、中毒及びその他外因の影響	XIII. 筋骨格系及び結合組織の疾患	X. 呼吸器系の疾患	V. 精神及び行動障害	XII. 皮膚及び皮下組織の疾患
25歳～29歳	V. 精神及び行動障害	VI. 神経系の疾患	XI. 消化器系の疾患	X. 呼吸器系の疾患	XII. 皮膚及び皮下組織の疾患
30歳～34歳	V. 精神及び行動障害	I. 感染症及び寄生虫症	X. 呼吸器系の疾患	VI. 神経系の疾患	II. 新生物
35歳～39歳	V. 精神及び行動障害	XI. 消化器系の疾患	I. 感染症及び寄生虫症	VI. 神経系の疾患	X. 呼吸器系の疾患
40歳～44歳	III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	V. 精神及び行動障害	IX. 循環器系の疾患	XIV. 腎尿路生殖器系の疾患	XI. 消化器系の疾患
45歳～49歳	V. 精神及び行動障害	XIV. 腎尿路生殖器系の疾患	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	IX. 循環器系の疾患	I. 感染症及び寄生虫症
50歳～54歳	XIV. 腎尿路生殖器系の疾患	IX. 循環器系の疾患	VI. 神経系の疾患	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	V. 精神及び行動障害
55歳～59歳	XIV. 腎尿路生殖器系の疾患	IX. 循環器系の疾患	VI. 神経系の疾患	V. 精神及び行動障害	II. 新生物
60歳～64歳	IX. 循環器系の疾患	XIV. 腎尿路生殖器系の疾患	II. 新生物	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	V. 精神及び行動障害
65歳～69歳	IX. 循環器系の疾患	II. 新生物	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	XIV. 腎尿路生殖器系の疾患	XI. 消化器系の疾患
70歳～	IX. 循環器系の疾患	II. 新生物	XIV. 腎尿路生殖器系の疾患	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	XI. 消化器系の疾患

※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。

表 7 疾病別年齢階層別医療費 上位5疾病 【女性】

年齢階層	1	2	3	4	5
0歳～4歳	X. 呼吸器系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	X VI. 周産期に発生した病態	VII. 耳及び乳様突起の疾患	I. 感染症及び寄生虫症
5歳～9歳	X. 呼吸器系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	I. 感染症及び寄生虫症	X I. 消化器系の疾患	VII. 眼及び付属器の疾患
10歳～14歳	V. 精神及び行動障害	VI. 神経系の疾患	X I. 消化器系の疾患	X. 呼吸器系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患
15歳～19歳	X. 呼吸器系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	VII. 眼及び付属器の疾患	I. 感染症及び寄生虫症	V. 精神及び行動障害
20歳～24歳	IX. 循環器系の疾患	X. 呼吸器系の疾患	V. 精神及び行動障害	X V. 妊娠・分娩及び産じょく	X I. 消化器系の疾患
25歳～29歳	V. 精神及び行動障害	X. 呼吸器系の疾患	VI. 神経系の疾患	X V. 妊娠・分娩及び産じょく	II. 新生物
30歳～34歳	X IX. 損傷、中毒及びその他外因の影響	V. 精神及び行動障害	X. 呼吸器系の疾患	X V. 妊娠・分娩及び産じょく	II. 新生物
35歳～39歳	V. 精神及び行動障害	X. 呼吸器系の疾患	VI. 神経系の疾患	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	X X I. 健康状態に影響及ぼす要因及び保健サービスの利用
40歳～44歳	V. 精神及び行動障害	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	II. 新生物	X. 呼吸器系の疾患	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患
45歳～49歳	V. 精神及び行動障害	II. 新生物	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	IX. 循環器系の疾患	X I. 消化器系の疾患
50歳～54歳	V. 精神及び行動障害	II. 新生物	IX. 循環器系の疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患
55歳～59歳	II. 新生物	V. 精神及び行動障害	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	IX. 循環器系の疾患
60歳～64歳	IX. 循環器系の疾患	II. 新生物	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患
65歳～69歳	IX. 循環器系の疾患	II. 新生物	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患
70歳～	IX. 循環器系の疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	II. 新生物	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	X I. 消化器系の疾患

※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。

② 中分類による疾病別医療費統計

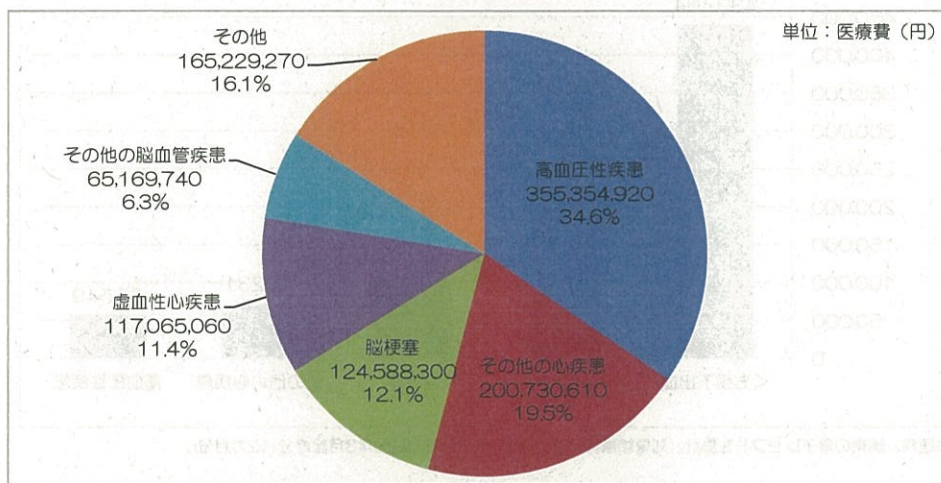
大分類において、医療費や患者数、患者一人当たり医療費が上位にきた「Ⅸ. 循環器系の疾患」、「Ⅱ. 新生物」、「Ⅳ. 内分泌、栄養及び代謝疾患」、「ⅩⅣ. 腎尿路生殖器系の疾患」、「ⅩⅢ. 筋骨格系及び結合組織の疾患」、「Ⅴ. 精神及び行動の障害」に着目し、中分類を用いて詳細化する。

- Ⅸ. 循環器系の疾患 : 医療費 第1位、患者数 第4位、
患者一人当たり医療費 第4位

医療費が最も高額で、死因の第2位である「心臓病」、第3位である「脳疾患」が含まれる「Ⅸ. 循環器系の疾患」について、中分類別にみると、「高血圧性疾患」の医療費が約3億5,535万円で34.6%を占めている。その次に心筋症や心不全が含まれる「その他の心疾患」の医療費が15%以上となっており、高い割合を占めている。

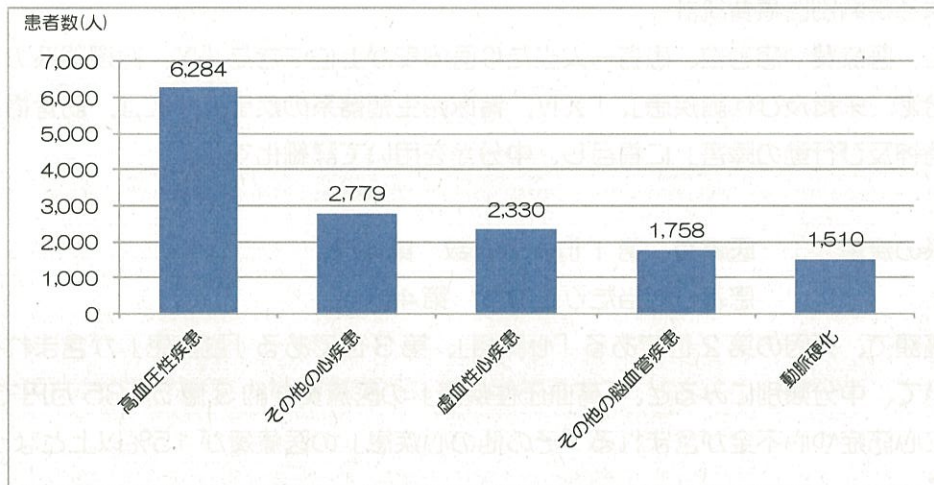
患者数は、「高血圧性疾患」の患者が一番多く6,284人、「その他の心疾患」、「虚血性心疾患」も2,000人を超えている。

患者一人当たり医療費では、「くも膜下出血」の患者一人当たり医療費が約44万円となっている。その他に「脳内出血」の患者一人当たり医療費が高額となっている。



※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。
※医療費総計…中分類の疾病項目毎に集計するため医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合、
調剤レセプトの医療費は集計できない。そのため他統計と一致しない。

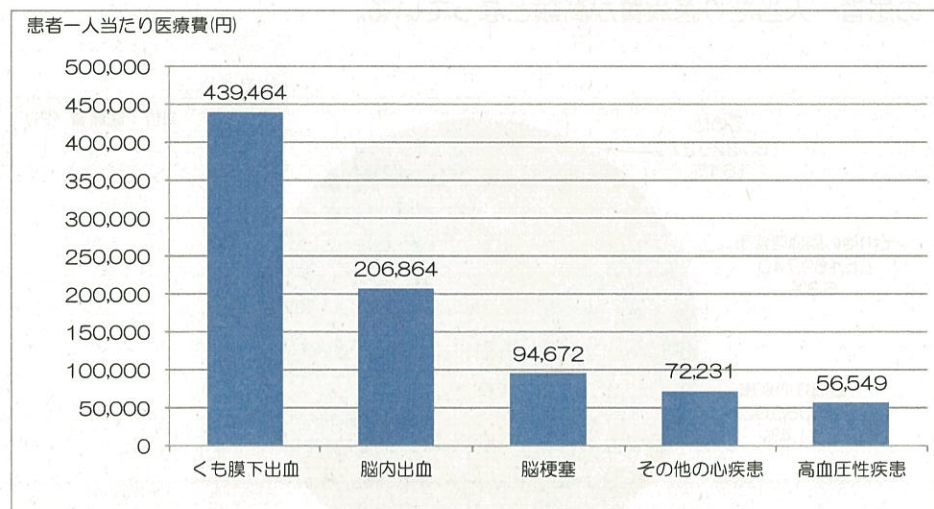
図 5 循環器系の疾患の医療費の内訳



※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

図 6 循環器系の疾患の患者数



※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。

図 7 循環器系の疾患の患者一人当たり医療費

● Ⅱ. 新生物 : 医療費 第2位、患者数 第8位、
患者一人当たり医療費 第2位

医療費が第2位、患者数一人当たり医療費が第2位であり、死因の第1位である「悪性新生物」が含まれる「Ⅱ. 新生物」について、中分類別にみると、前立腺癌等が含まれる「その他の悪性新生物」の医療費が約3億915万円で37.9%を占めている。その次に「気管、気管支及び肺の悪性新生物」の医療費が10%以上と高い割合を占めている。

患者一人当たり医療費では、「直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物」の患者一人当たり医療費が約59万円となっている。その他に「白血病」、「悪性リンパ腫」、「乳房の悪性新生物」が高額となっている。

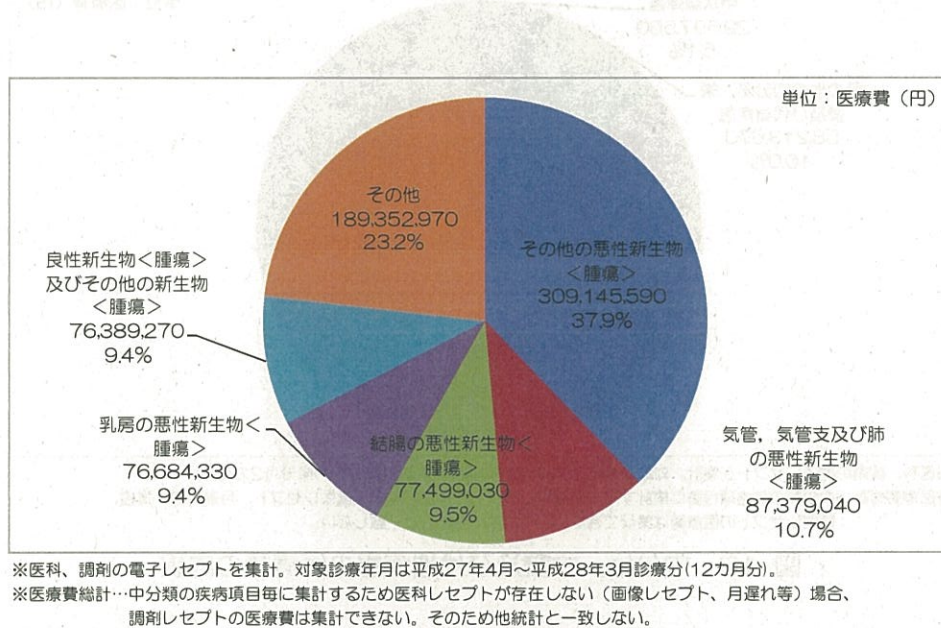


図 8. 新生物の医療費の内訳

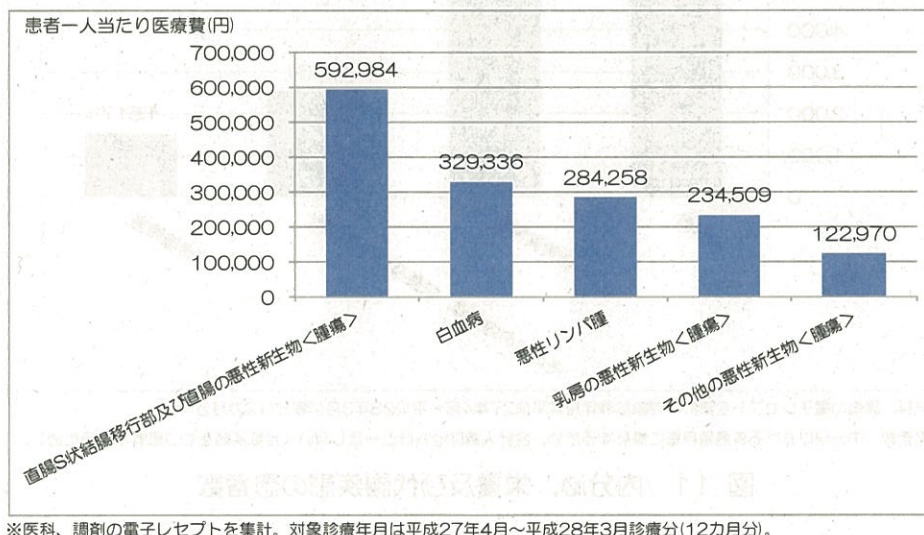
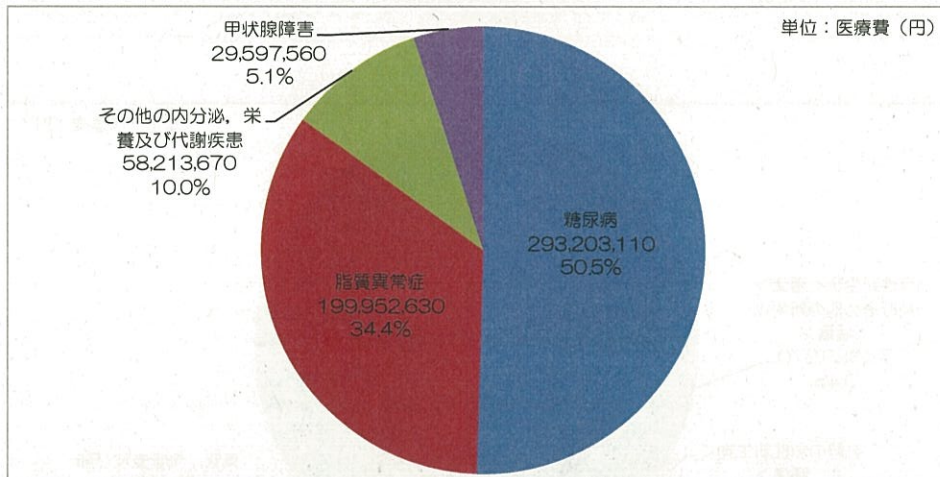


図 9. 新生物の患者一人当たり医療費

● IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患 : 医療費 第3位、患者数 第3位、
患者一人当たり医療費 第8位

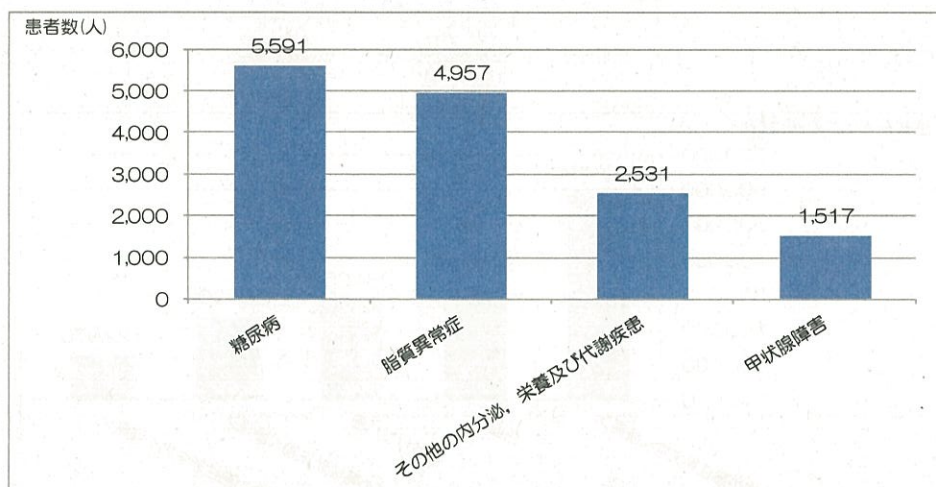
医療費、患者数が第3位である「IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患」について、中分類別にみると、「糖尿病」の医療費が約2億9,320万円で50.5%、「脂質異常症」の医療費が約1億9,995万円で34.4%を占めている。

患者数では、「糖尿病」が約5,600人、「脂質異常症」が約5,000人となっている。



※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。
※医療費総計…中分類の疾病項目毎に集計するため医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合、調剤レセプトの医療費は集計できない。そのため他統計と一致しない。

図 10 内分泌, 栄養及び代謝疾患の医療費の内訳



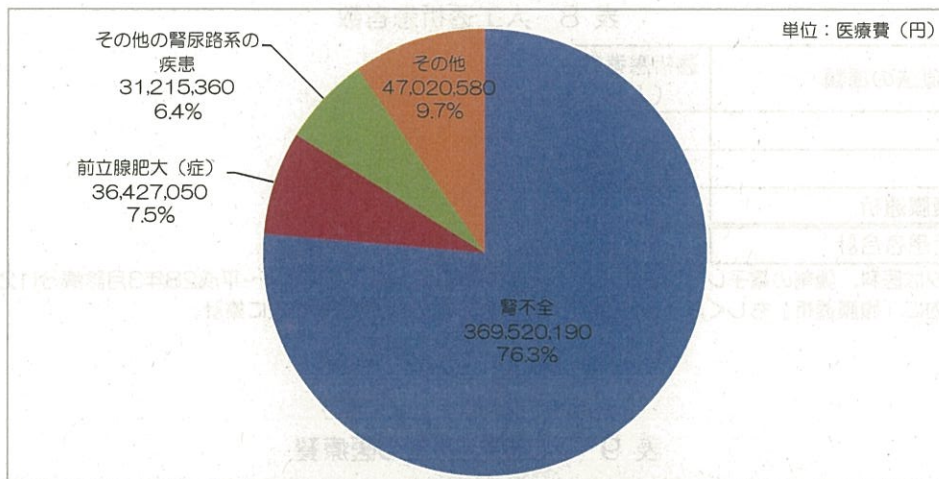
※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。
※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

図 11 内分泌, 栄養及び代謝疾患の患者数

- XIV. 腎尿路生殖器系の疾患 : 医療費 第5位、患者数 第12位、
患者一人当たり医療費 第3位

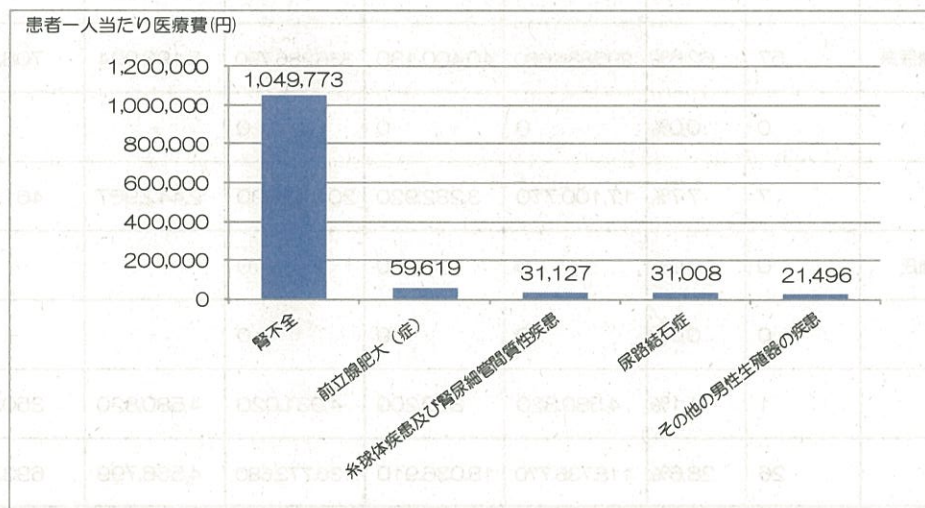
医療費が第5位、患者一人当たり医療費が第3位である「XIV. 腎尿路生殖器系の疾患」について、中分類別にみると、「腎不全」の医療費が約3億6,952万円で76.3%を占めている。

患者一人当たり医療費では、「腎不全」の患者一人当たり医療費が約105万円となっている。



※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。
※医療費総計…中分類の疾病項目毎に集計するため医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合、調剤レセプトの医療費は集計できない。そのため他統計と一致しない。

図 12 腎尿路生殖器系の疾患の医療費の内訳



※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。

図 13 腎尿路生殖器系の疾患の患者一人当たり医療費

「腎不全」の中には、年間の医療費が500万円～600万円必要になるといわれる人工透析患者が含まれる。人工透析患者についてみると、透析患者数は91人であり、そのうち起因疾病が「糖尿病性腎症 II型糖尿病」である患者が57人おり、62.6%と多くの割合を占めている。

また、人工透析患者の医療費は年間4億9,833万円かかっており、一人当たりでみると年間約548万円と高額な医療費がかかっている。

表 8 人工透析患者数

透析療法の種類	透析患者数 (人)
血液透析のみ	91
腹膜透析のみ	0
血液透析及び腹膜透析	0
透析患者合計	91

※レセプトデータは医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。
 ※対象診療年月内に「腹膜透析」もしくは「血液透析」の診療行為がある患者を対象に集計。

表 9 人工透析患者の医療費

透析患者の起因	透析患者数 (人)	割合	医療費(円)			患者一人当たり医療費(円)		
			透析関連	透析関連 以外	合計	透析関連	透析関連 以外	合計
① 糖尿病性腎症 I型糖尿病	0	0.0%	0	0	0	-	-	-
② 糖尿病性腎症 II型糖尿病	57	62.6%	295,886,660	40,400,130	336,286,790	5,190,994	708,774	5,899,768
③ 糸球体腎炎 IgA腎症	0	0.0%	0	0	0	-	-	-
④ 糸球体腎炎 その他	7	7.7%	17,100,770	3,232,920	20,333,690	2,442,967	461,846	2,904,813
⑤ 腎硬化症 本態性高血圧	0	0.0%	0	0	0	-	-	-
⑥ 腎硬化症 その他	0	0.0%	0	0	0	-	-	-
⑦ 痛風腎	1	1.1%	4,580,820	350,200	4,931,020	4,580,820	350,200	4,931,020
⑧ 不明 ※	26	28.6%	118,736,770	18,036,910	136,773,680	4,566,799	693,727	5,260,526
透析患者全体	91	100.0%	436,305,020	62,020,160	498,325,180	4,794,561	681,540	5,476,101

※レセプトデータは医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。

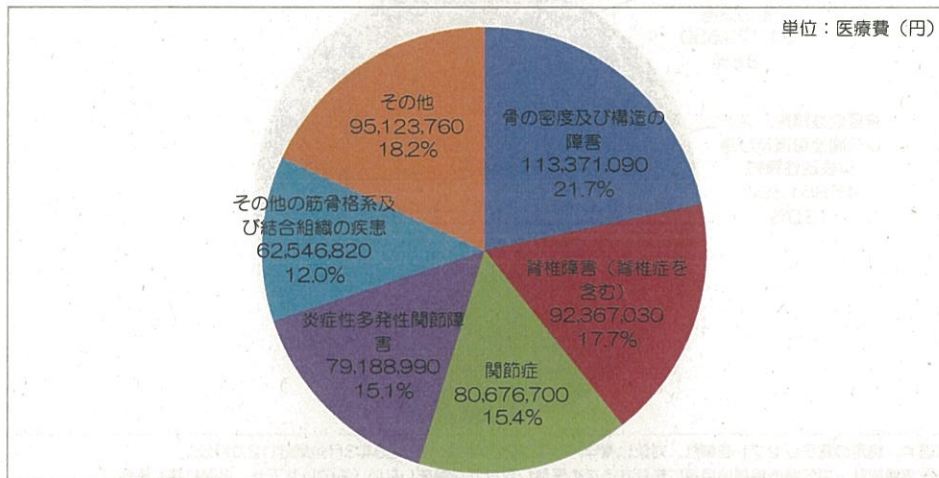
※対象診療年月内に「腹膜透析」もしくは「血液透析」の診療行為がある患者を対象に集計。

※⑧不明…①～⑦の傷病名組み合わせに該当せず、起因が特定できない患者。

- XⅢ. 筋骨格系及び結合組織の疾患 : 医療費 第4位、患者数 第5位、患者一人当たり医療費 第7位

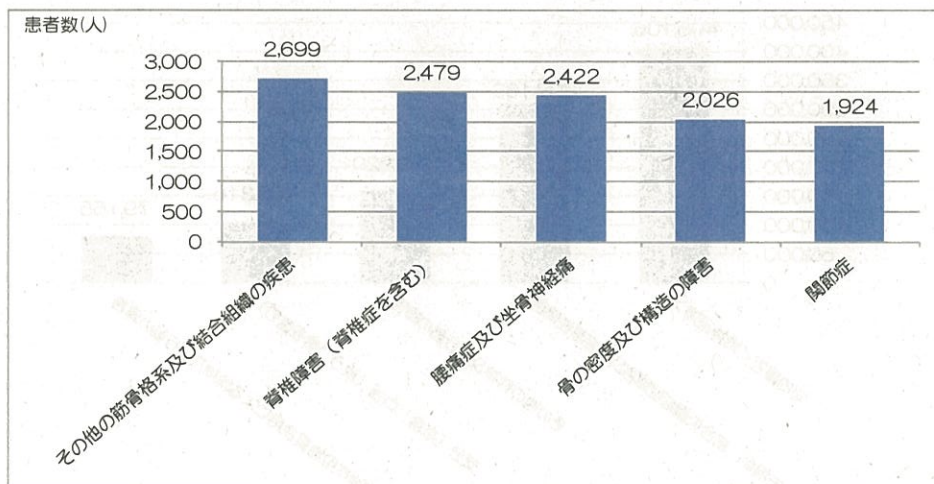
医療費が第4位であり、60歳以上の女性で医療費の割合の高い「XⅢ. 筋骨格系及び結合組織の疾患」について、中分類別にみると、「骨の密度及び構造の障害」の医療費が約1億1,337万円で21.7%を占めている。その次に「脊椎障害(脊椎症を含む)」、「関節症」、「炎症性多発性関節障害」の医療費がそれぞれ15%以上となっており、高い割合を占めている。

患者数では、「その他の筋骨格系及び結合組織の疾患」、「脊椎障害(脊椎症を含む)」、「腰痛症及び坐骨神経痛」、「骨の密度及び構造の障害」の患者数が2,000人以上となっている。



※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。
 ※医療費総計…中分類の疾病項目毎に集計するため医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合、調剤レセプトの医療費は集計できない。そのため他統計と一致しない。

図 14 筋骨格系及び結合組織の疾患の医療費の内訳



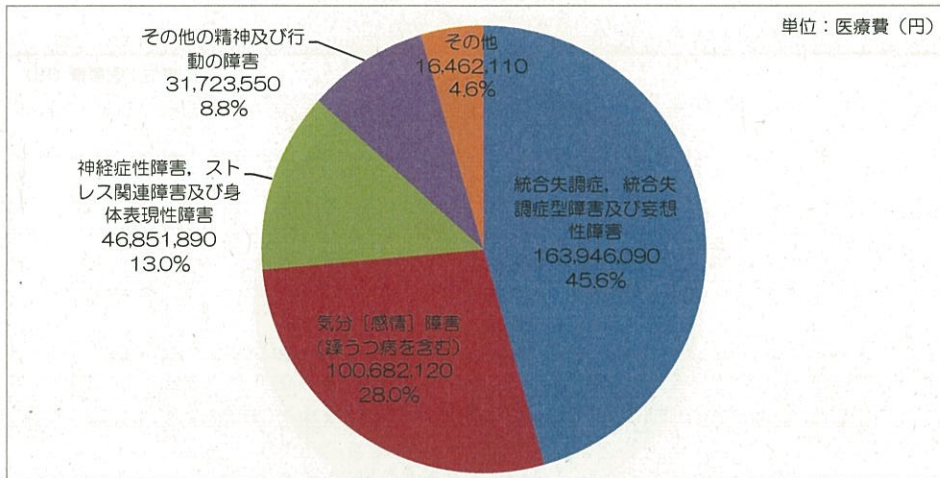
※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。
 ※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

図 15 筋骨格系及び結合組織の疾患の患者数

● V. 精神及び行動の障害 : 医療費 第7位、患者数 第15位、
患者一人当たり医療費 第1位

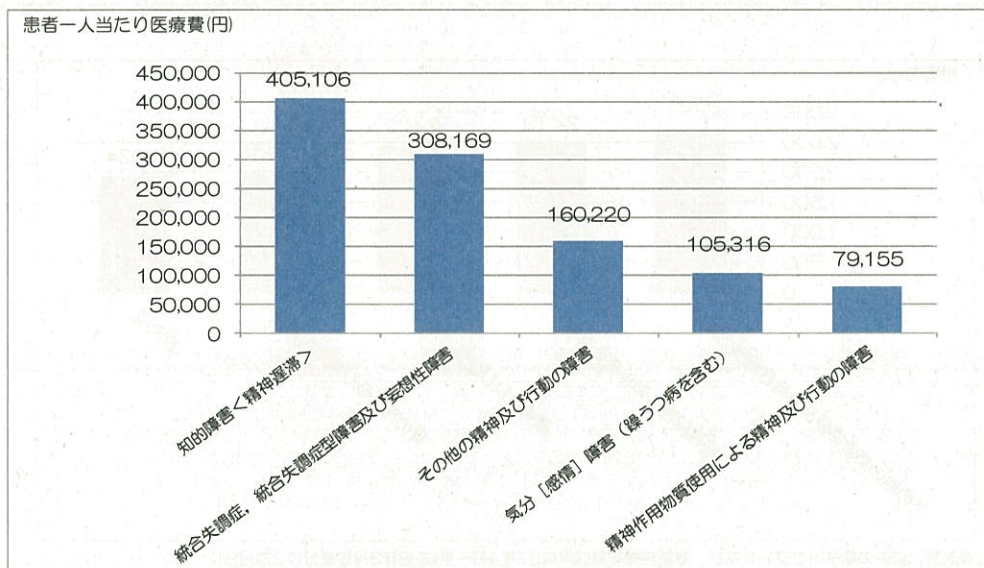
患者一人当たり医療費が第1位で、25歳～40歳代の医療費割合が高い「V. 精神及び行動の障害」について、中分類別にみると、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」の医療費が約1億6,395万円で45.6%を占めている。

患者一人当たり医療費では、「知的障害<精神遅滞>」の患者一人当たり医療費が約41万円、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」の患者一人当たり医療費が約31万円となっている。



※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。
※医療費総計…中分類の疾病項目毎に集計するため医科レセプトが存在しない（画像レセプト、月遅れ等）場合、調剤レセプトの医療費は集計できない。そのため他統計と一致しない。

図 16 精神及び行動の障害の疾病別割合



※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。

図 17 精神及び行動の障害の患者一人当たり医療費

③ 高額レセプトの原因となる疾病傾向

1件当たりの点数が5万点以上である高額レセプトの要因となる疾病をみると、「ウイルス性肝炎」、「くも膜下出血」、「その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害」、「悪性リンパ腫」の患者一人当たり医療費が高くなっている。

表 10 高額レセプトの要因となる疾病

	中分類疾病項目	患者数 (人)	医療費 (円)	患者一人当たり 医療費(円)
1	ウイルス性肝炎	10	42,103,820	4,210,382
2	くも膜下出血	5	19,279,110	3,855,822
3	その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	6	22,357,030	3,726,172
4	悪性リンパ腫	7	22,485,190	3,212,170
5	知的障害<精神遅滞>	1	3,028,080	3,028,080
6	炎症性多発性関節障害	2	4,904,630	2,452,315
7	熱傷及び腐食	1	2,234,750	2,234,750
8	腎不全	28	60,873,510	2,174,054
9	動脈硬化(症)	10	19,835,390	1,983,539
10	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	22	43,510,980	1,977,772

※レセプトデータは医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。

(3) 医療機関受診状況

医療機関への過度な受診の可能性がある重複受診者数や頻回受診者数、過度な服薬の可能性がある重複薬者数は以下のとおりである。12カ月間の実人数として、重複受診者は136人、頻回受診者は590人、重複服薬者は318人おり、月により人数のばらつきは見られるが一定数以上の対象者がいることがわかる。

表 11 重複受診者数

	平成27年4月	平成27年5月	平成27年6月	平成27年7月	平成27年8月	平成27年9月	平成27年10月	平成27年11月	平成27年12月	平成28年1月	平成28年2月	平成28年3月
重複受診者数(人)※	10	14	8	19	13	7	15	8	11	11	14	22
12カ月間の延べ人数											152	
12カ月間の実人数											136	

※レセプトデータは医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。

※重複受診者数…1カ月間に同系の疾病を理由に、3医療機関以上受診している人を対象とする。

透析中、治療行為を行っていないレセプトは対象外とする。

表 12 頻回受診者数

	平成27年4月	平成27年5月	平成27年6月	平成27年7月	平成27年8月	平成27年9月	平成27年10月	平成27年11月	平成27年12月	平成28年1月	平成28年2月	平成28年3月
頻回受診者数(人)※	135	111	166	141	112	106	146	119	130	120	158	154
12カ月間の延べ人数											1,598	
12カ月間の実人数											590	

※レセプトデータは医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。

※頻回受診者数…1カ月間に12回以上受診している患者を対象とする。透析患者は対象外とする。

表 13 重複服薬者数

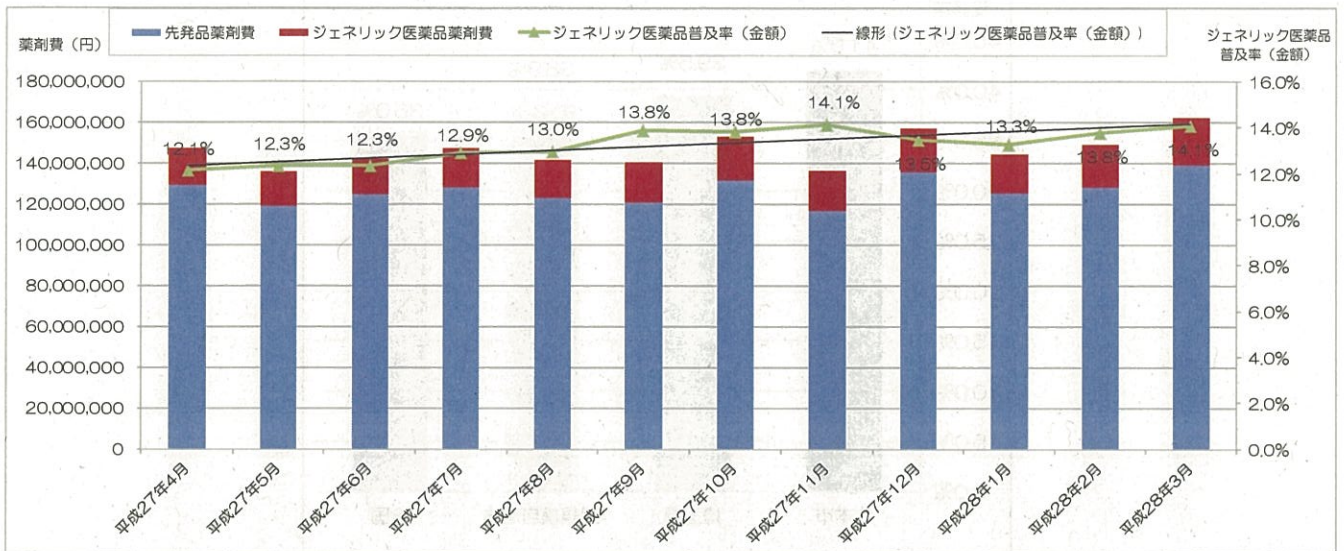
	平成27年4月	平成27年5月	平成27年6月	平成27年7月	平成27年8月	平成27年9月	平成27年10月	平成27年11月	平成27年12月	平成28年1月	平成28年2月	平成28年3月
重複服薬者数(人)※	17	53	51	50	56	64	53	57	64	54	50	73
12カ月間の延べ人数											642	
12カ月間の実人数											318	

※レセプトデータは医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。

※重複服薬者数…1カ月間に、同系の医薬品が複数の医療機関で処方され、同系医薬品の日数合計が60日を超える患者を対象とする。

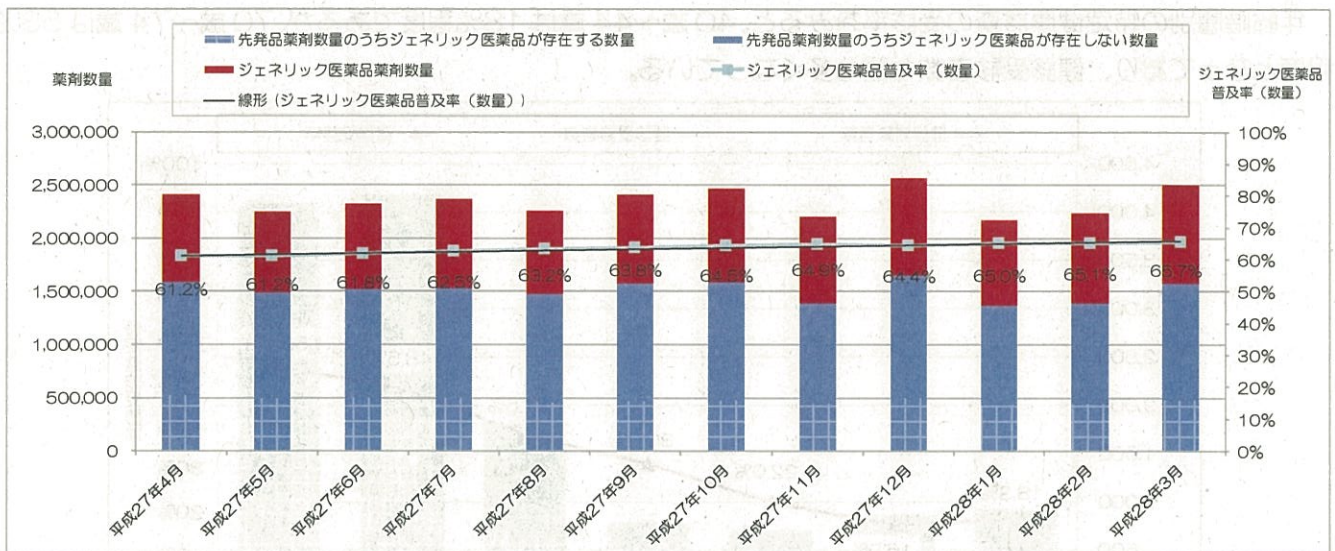
(4) 後発医薬品普及状況

診療年月毎の全体の薬剤費総額に対する後発医薬品（以下、ジェネリック医薬品）薬剤費の割合は、平成27年4月～平成28年3月診療分の12カ月分での平均で13.3%である。全体の薬剤数量に対するジェネリック医薬品薬剤数の割合は63.6%である。



※レセプトデータは医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。

図 18 ジェネリック医薬品普及状況（金額）



※レセプトデータは医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。

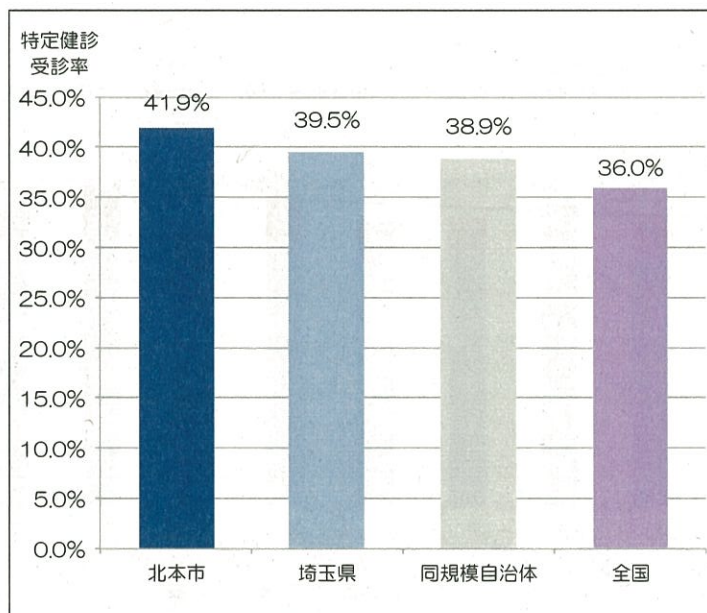
※ジェネリック医薬品普及率…ジェネリック医薬品薬剤数量/(先発品薬剤数量のうちジェネリック医薬品が存在する数量 + ジェネリック医薬品薬剤数量)

図 19 ジェネリック医薬品普及状況（数量）

3. 特定健康診査受診状況及び特定保健指導実施状況

(1) 特定健康診査受診状況

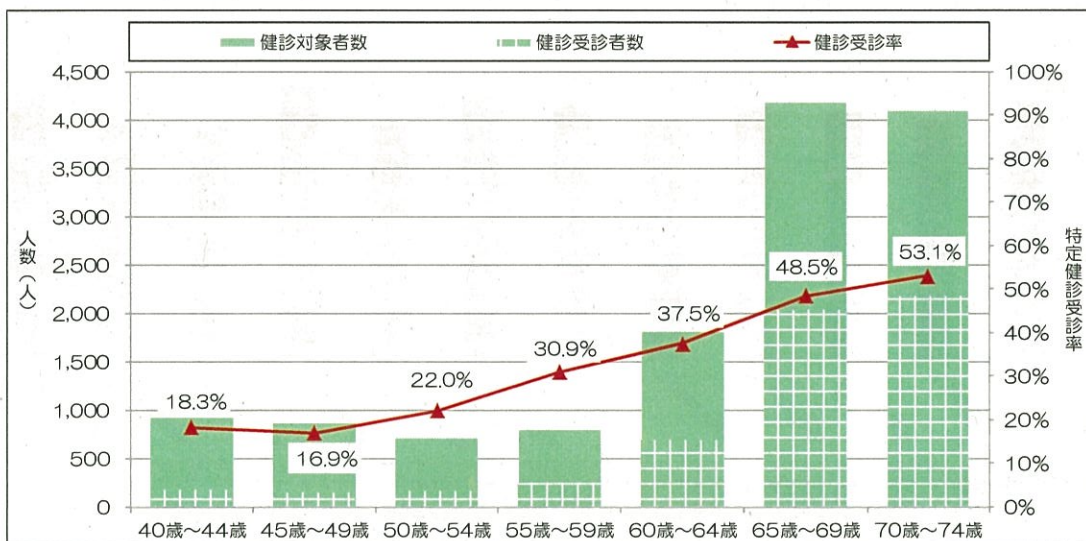
特定健康診査の受診率は41.9%であり、埼玉県、同規模自治体、全国と比較すると高くなっている。



※国保データベース (KDB) システム 「地域の全体像の把握」より

図 20 特定健康診査受診率 (平成27年度)

年齢階層別の特定健康診査の受診率をみると、40歳～44歳は18%程度であるが、70歳～74歳は53%程度となっており、健診受診者数も最も多くなっている。



※国保データベース (KDB) システム 「健診の状況」より

図 21 特定健康診査年齢階層別受診率

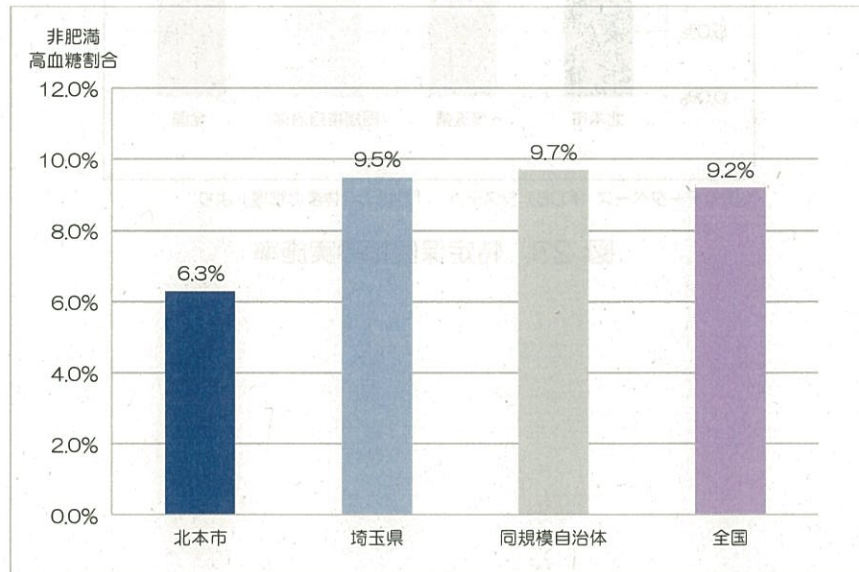
メタボ割合、メタボ予備群の割合をみると、男女ともにメタボ割合は、埼玉県や同規模自治体、全国と比較して低い水準となっている。予備群の割合は男女ともに埼玉県や同規模自治体、全国よりも低くなっている。

表 14 メタボ割合

	メタボ割合		予備群割合	
	男性	女性	男性	女性
北本市	24.5%	8.8%	20.1%	6.6%
埼玉県	26.2%	9.1%	17.4%	5.7%
同規模自治体	26.5%	9.6%	17.1%	5.9%
全国	26.6%	9.2%	17.1%	5.8%

※国保データベース（KDB）システム 「地域の全体像の把握」より

非肥満高血糖割合をみると、6.3%となっており、埼玉県や同規模自治体、全国と比較して低い水準となっている。

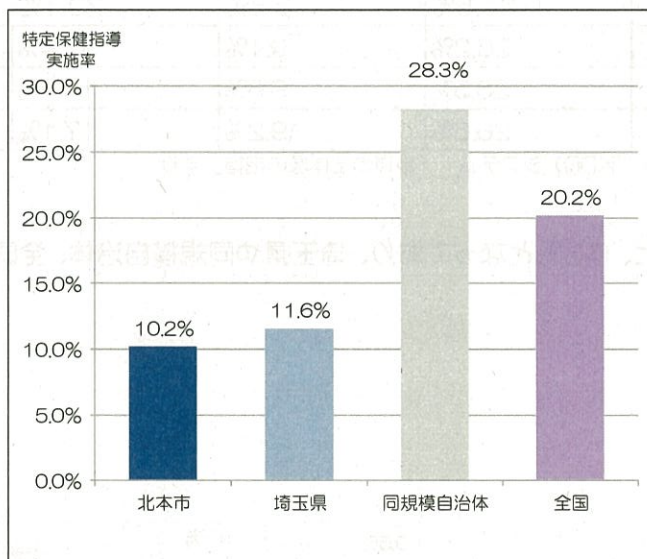


※国保データベース（KDB）システム 「地域の全体像の把握」より

図 22 非肥満高血糖割合

(2) 特定保健指導実施状況

特定保健指導の実施率は10.2%であり、埼玉県や同規模自治体、全国と比較して低い割合となっている。



※国保データベース (KDB) システム 「地域の全体像の把握」より

図 23 特定保健指導実施率

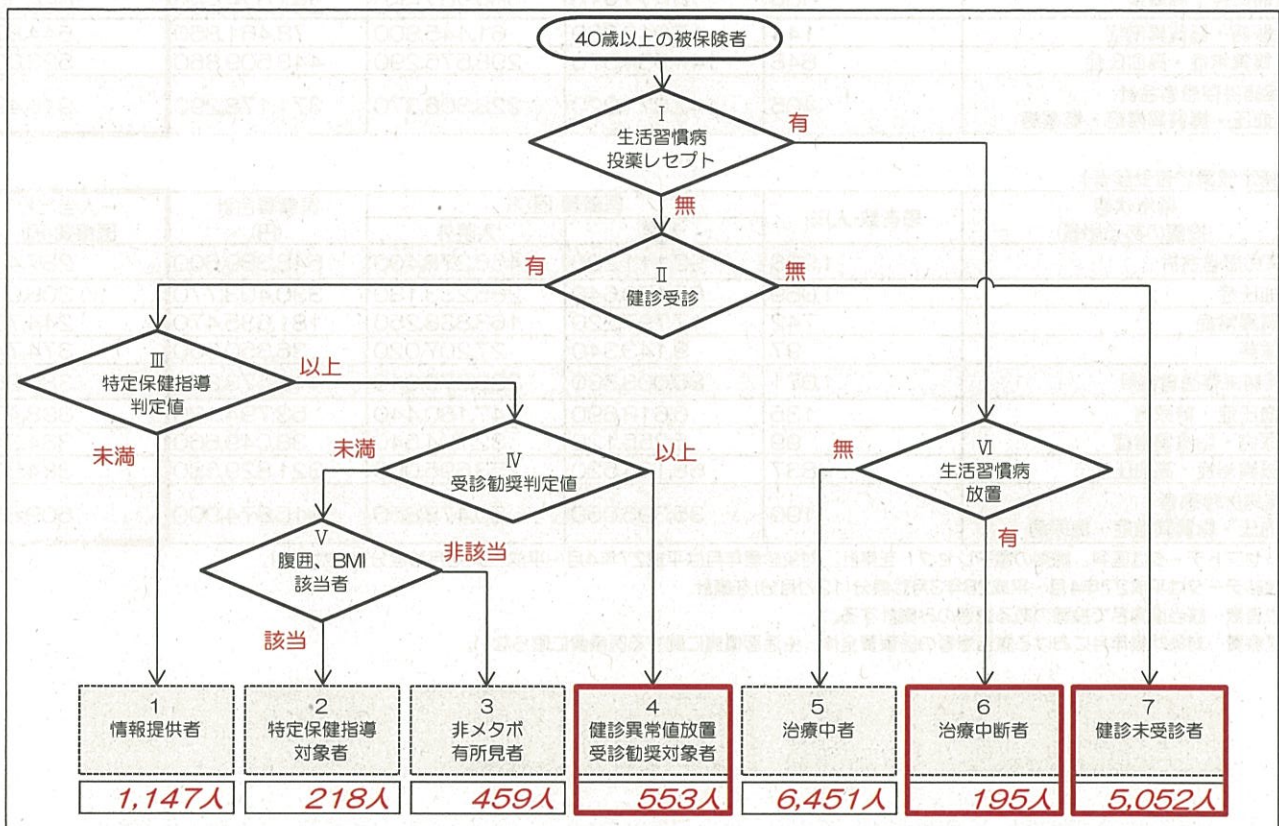
(3) 特定健康診査及びレセプトによる指導対象者の状況

特定健康診査の受診状況と医療機関への通院状況から、下記のとおり分類した。

その中で「4 健診異常値放置受診勧奨対象者」は、特定健康診査の結果値が受診勧奨領域にあるが、生活習慣病に関するレセプトが発生していない（医療機関へ通院していない）人であり、553 人いることがわかる。

また、「6 治療中断者」は、生活習慣病で医療機関を通院していたが、治療行為を中断してしまっている人であり、195 人いることがわかる。

最後に、「7 健診未受診者」は、医療機関へも通院しておらず、また特定健康診査も受診していない人で、健康な人も含まれていると考えられるが、健康状態が不明な人であり、5,052 人いることがわかる。



※レセプトデータは医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。

※健診データは平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)を集計。

図 24 健診及びレセプトによる指導対象者の状況

(4) 特定健康診査受診有無による医療費の状況

特定健康診査の受診者と未受診者の生活習慣病の一人当たり医療費を比較すると、疾病の種類に関わらず特定健康診査受診者の一人当たり医療費の方が低くなっている。

表 15 特定健康診査受診有無による医療費の状況

【特定健康診査未受診者】					
罹患状態 (投薬のある患者)	患者数(人)※	医療費(円)※		医療費合計 (円)	一人当たり 医療費(円)
		入院	入院外		
1 疾病患者合計	1,848	304,372,950	688,363,500	992,736,450	537,195
高血圧症	1,261	208,681,740	515,877,420	724,559,160	574,591
脂質異常症	417	47,157,820	115,038,800	162,196,620	388,961
糖尿病	170	48,533,390	57,447,280	105,980,670	623,416
2 疾病併存患者合計	1,290	238,528,440	568,418,640	806,947,080	625,540
高血圧症・糖尿病	298	76,577,810	208,397,550	284,975,360	956,293
糖尿病・脂質異常症	144	17,016,060	61,445,800	78,461,860	544,874
脂質異常症・高血圧症	848	144,934,570	298,575,290	443,509,860	523,007
3 疾病併存患者合計	405	142,871,920	228,306,370	371,178,290	916,490
高血圧・脂質異常症・糖尿病					

【特定健康診査受診者】					
罹患状態 (投薬のある患者)	患者数(人)※	医療費(円)※		医療費合計 (円)	一人当たり 医療費(円)
		入院	入院外		
1 疾病患者合計	1,908	92,111,200	456,278,400	548,389,600	287,416
高血圧症	1,069	65,170,640	265,233,130	330,403,770	309,077
脂質異常症	742	17,797,220	163,838,250	181,635,470	244,792
糖尿病	97	9,143,340	27,207,020	36,350,360	374,746
2 疾病併存患者合計	1,071	80,003,330	333,670,040	413,673,370	386,250
高血圧症・糖尿病	135	6,613,690	47,180,440	53,794,130	398,475
糖尿病・脂質異常症	99	5,255,120	32,794,540	38,049,660	384,340
脂質異常症・高血圧症	837	68,134,520	253,695,060	321,829,580	384,504
3 疾病併存患者	190	35,396,050	80,478,850	115,874,900	609,868
高血圧・脂質異常症・糖尿病					

※レセプトデータは医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)。

※健診データは平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)を集計。

※患者数…該当傷病名で投薬のある患者のみ集計する。

※医療費…対象診療年月における該当患者の医療費全体。生活習慣病に関する医療費に限らない。